

令和 5 年 4 月 28 日

令和 4 年度研究開発報告

住所 愛媛県松山市一番町四丁目 4 番地 2
管理機関名 愛媛県教育委員会
代表者名 教育長 田所 竜二

令和 4 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発実施内容を、下記のとおり報告します。

記

1 事業特例校名・類型

学校名 愛媛県立宇和島南中等教育学校
学校長名 中村 惣一
類型 グローカル型

2 令和 4 年度研究開発実施概要

- (1) グローバル人材を育成するための課題研究プログラム開発「グローバル・アクティビティ」
(以下「GA」という)

行政、研究機関、企業及び大学等の外部機関との緊密な協力関係を築き、国内外でのフィールドワーク (FW) を含む課題探究学習等を行うことにより、問題発見能力、論理的思考力・分析力、世界に売り込む企画立案力・交渉力及び異文化理解力等を高める。

- (2) コミュニケーション能力を高めるための教育課程の開発「グローバル・スキル」(以下「GS」という)

ア 英語によるコミュニケーション能力の向上

学校設定科目「GS」のカリキュラム開発を行う。

イ グローバル社会で通用する批判的思考力、発信力、表現力等の向上

ディベート、タスクベース型授業 (TBLT)、プレゼンテーション等を実施する。

- (3) グローバルマインドの向上「グローバル・チャレンジ」(以下「GC」という)

留学生の受け入れ、海外の学校 (永豊高級中学(台湾)、カワナナコア中学 (アメリカ・ハワイ)、プナホウ高校(アメリカ・ハワイ)、チャペルヒル高校、イーストチャペルヒル高校 (アメリカ・ノースカロライナ)) との国際交流の促進を図るとともに、海外への留学や進学志向を高める。

3 教育課程の特例の活用 (□で囲むこと)

- ア 学校設定教科・科目を開設している
 イ 教育課程の特例の活用している

(別紙様式 5)

4 コンソーシアムについて

コンソーシアムの構成団体

- (1) 宇和島市まちづくり課
- (2) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
4/26(火)	「高校生まちづくり課(5期生)」発足式
6/19(日)	第1回ワークショップ「今年度の目標であるオリジナル商品の開発に向けたワークショップ」
7/25(月)	第2回ワークショップ「商品開発に向けた事業者見学(植村製菓・コバヤ)」
8/18(木)	第3回ワークショップ「商品開発に向けたワークショップ」
9/10(土)	第4回ワークショップ「商品開発に向けたワークショップ」
10/16(日)	第5回ワークショップ「商品開発に向けたワークショップ(試食・ラベル作成)」
11/19(土)	第6回ワークショップ「商品開発に向けたワークショップ(ラベル作成・クラウドファンディング準備)」
3/27(月)	成果報告会

5 研究開発の実績

- (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な探究の時間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
GA	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
GS	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
GC			○	○	○				○	○	○	○

- (2) 実績の説明

ア 課題研究活動

4年生は「総合的な探究の時間Ⅰ」で、5年生・6年生は学校設定科目「GAⅡ・Ⅲ」を設定し、課題研究活動を行い、グローバル時代に対応する持続可能な地域社会を支える人材育成の研究に取り組んだ。

- (ア) 「総合的な探究の時間Ⅰ」(4年生)

① ローカルな課題及びグローバルな課題に関する研究Ⅰ【共通分野】

4年生全員(137人)を対象に計4回の講演会を実施した。地元宇和島の現状を把握し、愛郷心の育成を図るとともに、課題研究への興味・関心の喚起及び地域の基幹産業等の知識を習得させた。

実施日	講演内容	講師
4/28(木)	宇和島の歴史と文化	宇和島市教育委員会 西澤 昌平 学芸員

(別紙様式 5)

5/12(木)	宇和島の水産業と水産試験場の取組について	愛媛県農林水産研究所水産研究センター 谷川 貴之 研究企画室長
5/26(木)	愛媛みかんの生産状況と今後の展望について	愛媛県農林水産研究所果樹研究センター みかん研究所 二宮 泰造 所長
6/2(木)	世界共通のゴール SDGs の達成に向かって	愛媛大学国際連携推進機構 小林 修 教授

② ローカルな課題及びグローバルな課題に関する研究Ⅰ【コース別分野】

生徒が4～5人の班(全34班)を作り、「水産業」「柑橘業」「まちづくり」「防災」「地域の企業」「国際文化」の6コースの中から興味・関心のあるテーマを選択した。本校教諭が継続して指導するほか、適宜、大学及び研究機関の先生方から指導助言を受けながら課題研究の深化を図った。その研究成果については、ポスター作成及び研究発表を行い、普及に努めた。

課題研究コース	指導者	指導回数	対象生徒
水産業	愛媛県農林水産研究所水産研究センター 谷川 貴之 研究企画室長 愛媛大学南予水産研究センター 高木 基裕 教授	7回	8班 32人
柑橘業	愛媛県農林水産研究所果樹研究センターみかん研究所 二宮 泰造 所長 愛媛大学農学部 山田 寿 教授	3回	7班 28人
まちづくり	宇和島市教育委員会文化・スポーツ課文化財保護係 学芸員 西澤 昌平 講師 愛媛大学社会連携推進機構 前田 眞 教授	8回	6班 25人
防災	愛媛大学防災情報研究センター 山本 浩司 教授	5回	3班 12人
地域の企業	松山短期大学 西岡 久継 講師	7回	3班 12人
国際文化	愛媛大学国際連携推進機構 小林 修 教授 愛媛大学国際連携推進機構 村上 和弘 教授	7回	7班 28人

③ 海外FW

例年行っていた台湾での海外フィールドワークについては、一昨年度、昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

④ 国内(県外)FW

例年行っていた国内(県外)フィールドワークについては、一昨年度、昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。

⑤ 国内(県内)FW

地元企業・関係団体への訪問生徒数は延べ48人であった。

(イ) 「GAⅡ」(5年生)

4年生で学んだ知識や技術を生かし、地域の活性化につながる新たな研究課題を見付け、解決のための実践的な研究を行った。

【課題研究】

- グローカルⅡ型を対象とした「GAⅡ」(週2時間)

(別紙様式 5)

対象の 40 人の生徒は、適宜、大学教員等の専門家の指導を受けながら、一人一人が設定した課題研究に取り組み、1 人 1 台端末のタブレットを存分に活用してポスターを作成するとともに、3 月 9 日 (木) には校内発表会を行った。指導する教員は、研究について計画段階から丁寧に指導し、見通しを立てさせながら、生徒がより客観的・具体的に研究を進められるよう努めた。

○ グローカル I 型を対象とした「G A II」(週 1 時間)

生徒は、一班 2～4 人からなるチーム (全 20 班) を編成し、UG I 推進本部、担任、副担任及び各教科の教員の指導助言の下、課題研究に取り組み、ポスター作成を行った。その際、1 人 1 台端末を活用し、共同編集を行うことで効率的な活動となるようにした。担当となった教員は、協働して研究する上で必要なことを教えるとともに、できる限り市内の各事業所を訪問させることで、地域の現状を重視する指導を行った。次年度に新 4 年生に向けての研究発表会を実施する。

(ウ) 「G A III」(6 年生)

5 年次における研究成果について、生徒同士でディスカッションを行いながら内容をまとめ、論文を作成した。

【課題研究のまとめ】

- 全 6 年生 (144 人) を対象とした「G A III」(週 1 時間) では、校長をはじめとする全教員 (30 人) を指導者として割り当て、教員一人当たり 1～2 班を受け持ち、論文作成に取り組んだ。
- 研究成果は、冊子にまとめた。

(エ) 前期生 (1～3 年生) は本事業の対象ではないが、4 年次からスムーズに活動し、より事業の成果を高められるよう、「G A Basic」を行った。

学年	名 称	内 容
1 年	「宇和島学」	市内探訪 (伊達博物館、宇和島城、市歴史資料館)
2 年	「世界学」	アジア地域の文化、産業等についての学習
3 年	「キャリア学」	地場産業と地域の企業についての学習

イ 「G S」

学校設定教科・科目として「G S II・III」を設定し、英語 4 技能の育成に努めた。

(ア) 実用的な英語能力の向上

「G S II」では、スピーチ練習、日常会話演習、ディスカッション、エッセイライティングを実施し、「話す」「聞く」技能の強化に努めた。「G S III」では、リスニング演習、即興スピーチ、エッセイライティング、英語ディベート演習を実施し、英語で即応できる能力の育成に努めた。

(イ) 海外とのオンライン交流活動

本年度は、希望者を対象としたオンライン交流活動を授業外で実施した。アメリカ合衆国ノースカロライナ州・ハワイ州、カナダで日本語を学習している高校生と Zoom 等のビ

(別紙様式5)

デオチャット機能を使用して、双方向のコミュニケーションを行い、お互いの文化を英語と日本語で紹介したり話し合ったりする交流活動を行った。

ウ 「GC」

異文化体験や外国語研修、また様々なコンテストや研修への参加を通して、生徒の見識を広げ、グローバルな対応力を伸ばす活動を行った。

(ア) 語学研修及び国際交流等

留学・研修先	名 称	期間	参加生徒数
シンガポール	トビタテ！留学 Japan プログラム	14 日間	1 人
オーストラリア	オーストラリア短期留学プログラム (オンライン)	5 日間	9 人
オーストラリア	オーストラリア短期語学研修	14 日間	8 人

(イ) 対外コンテスト

コンテストの名称	主 催	参加生徒数
ロボットアイデア甲子園 愛媛大会	(一社)日本ロボット工業会	1 人
台湾への修学旅行プランニングコンテスト	松山空港利用促進協議会 愛媛県観光国際課航空政策室	4 人
2022年度全国高校生フォーラム 課題研究発表	文部科学省	3 人

(ウ) 校外研修

行 事 の 名 称	主 催	参加生徒数
日本の次世代リーダー養成塾成果普及研修会	愛媛県教育委員会	2 人
第4回英語教育フェスタ	愛媛県教育委員会	1 人
愛媛県高等学校国際教育研究協議会	愛媛県教育委員会	4 人
人口減少社会に挑む！フォーラム2022	愛媛大学社会連携推進機構	5 人
えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 南予	愛媛県教育委員会	44 人
全国高校生 Pre SDGs Youth Summit	愛媛大学附属高等学校	2 人
宇和島市海洋ごみ対策セミナー	宇和島市	2 人
Horibata Cafe Meeting	宇和島市中央公民館	2 人
南予水産地域研究交流会 第1回	愛媛大学社会連携推進機構	6 人

(別紙様式 5)

(エ) 校外活動

各種の地域イベントに参加し、地域に対する関心を高めたり愛郷心を高めたりするとともに、地域の課題を把握し地域づくりのための理論や方法を実践を通して身に付けた。

行事の名称	主催	参加生徒数
うわじま圏域子ども観光大使基礎講座	うわじま圏域子ども観光大使 実行委員会	2人
J R 宇和島駅インフォメーションボード	宇和島市	2人
「高校生まちづくり課」プロジェクト(年8回)	宇和島市	6人
マルシェイベントボランティア	宇和島オリエンタルホテル	4人
J R 四国ボランティアガイド	南予地方局・J R 四国	4人

(オ) 成果普及のための取組

① 研究成果報告・発表会

研究成果については、ポスターの作成及びプレゼンテーション発表をすることで、語学力、コミュニケーション力及び思考力・判断力・表現力・分析力の養成を図った。

○ 校内(4回)

- ・ U G I 分野別発表会 1 回(4年生)
- ・ U G I 校内ポスター発表会 2 回(4・5・6年生)
- ・ U G I 文化祭発表 1 回 ※ U G I … 宇和島南グローバルイノベーション

○ 校外(3回)

- ・ 全国高校生フォーラム(文部科学省主催)
- ・ えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 南予(愛媛県教育委員会主催)
- ・ 南予水産研究交流会(愛媛大学社会連携推進機構主催)

② 学校HPへの掲載回数 年 38 回(4月～2月)

③ メディアへの掲載

- ・ 愛媛新聞(高校生まちづくり課プロジェクト)
- ・ NHK等全国区テレビ局(J R 四国ボランティアガイド)
- ・ 地元ケーブルテレビ局

(3) 研究開発の実施体制について

ア U G I 推進本部の設置

イ U G I 事業のための担当非常勤実習助手(1人)

ウ A L T (外国語指導助手)の配置(1人)

(4) 次年度以降の課題及び改善点

新教育課程の開始に伴い、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業特例校」として指定が満了する本年度末にさきがけ、特例として認められていた2単位の課題研究時間である「G A I」が、4年生は「総合的な探究の時間 I」1単位となった。それに伴い、昨年度の課題として掲げた「U G I 事業で培ってきた取組の、内容的・組織的部分を含めた総合的な探究の時間への効果的な移行の在り方」を模索する一年となった。「学び、思考し、話し合い、行動し、振り返る」という本校が S G H 指定校時代から行ってきた課題研究活動の循環を維持するとともに、生徒・教員の負担を考慮しながらこれまでの活動で築いてきた地域とのつなが

(別紙様式 5)

りを保つという二つの目標を掲げ、取組の精選に努めた。講演会後は、2 単位時であれば、班ごとのディスカッションによってテーマへの理解を深めさせていたが、本年度は、関連する資料をタブレットに添付し、それを視聴させることによって個別に深化させ、全ての講演会が終了した段階で班の中でディスカッションを行うようにしたことや、宇和島市内で行われる各種活動への生徒の参加について、事前申告と承認及び事後の報告書の提出という手続きに改善することで、教員の引率を不要とし、生徒の自主的参加に関する自由度も高めたことなどがその例として挙げられる。このような工夫を行うことで、「総合的な探究の時間 I」に関しては、時間が少なくなったにもかかわらず、内容を濃縮することで、生徒の課題研究活動の循環を特例時とほぼ同じ水準に維持でき、また地域との結びつきを損なうことなく活動できたことが、成果であると言える。

課題研究を通して、自分の進路を見出す生徒が増えてきたことも本年度の特徴である。柑橘について研究していた生徒が、柑橘業に活かせるロボットについてのアイデアを持って、ロボットアイデアコンテストに参加したことで工学への興味・関心を高めたり、地域の防災について研究していた班が、台湾修学旅行プランニングコンテストにエントリーし、台湾と愛媛を防災でつなぐプランを作成・発表する過程で、防災だけでなく国際関係や経済などといった分野にも興味を持ち始めたりするなど、その例は枚挙にいとまがない。今後も、「GC」の中で、生徒が様々な経験を積めるようなプロジェクトを提案していきたい。

今後の課題としては、引き続き「UG I 事業で培ってきた取組の、内容的・組織的部分を含めた『総合的な探究の時間』への効果的な移行のあり方」を挙げる。本年度の取組によって、「総合的な探究の時間」1 単位の活かし方の目途はついてきたが、更に改良や工夫を重ねるべき点も見えてきた。例えば、課題研究成果ポスター発表会の開催月の統一（現在は3月と4月）や、1人1台端末の更なる活用法の研究、グローバル視点の講演会やワークショップの開催などである。UG I 事業の取組を精錬しながら「総合的な探究の時間」へと引き継ぎ、生徒がグローバルな視点でローカルの諸問題の解決を図ろうとする中で、自らの進むべき道を探究していくことができるようなカリキュラム開発とシステム構築を、来年度も引き続き行っていきたい。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	(089)912-2954
氏名	中村 紗喜子	FAX	(089)912-2949
職名	指導主事	e-mail	nakamura-sakiko@pref.ehime.lg.jp